

□ 1 推敲を重ねることので文章は洗練される。

文章表現を繰り返し直すこと

□ 2 彼女は語彙がとても豊富だ。

ある言語で用いられる語の全体

□ 3 人の一生は刹那にすぎない。

さわめて短い時間

□ 4 秋の野山を逍遙する。

ふらふら歩くこと

□ 5 両親の庇護のもと、何不自由なく育つ。

かばいまもること

□ 6 中世の人々は神を畏怖していた。

おそれおのくこと

□ 7 所詮かなわぬ夢だった。

結局

□ 8 みんなの羨望の的となる。

うらやましく思われること

□ 9 衷心より哀悼の気持ちを書べる。

心の奥底

□ 10 未来永劫にわたって愛することを誓う。

無限に長い年月

□ 11 彼は作曲家として稀有な才能の持ち主だ。

めったにないさま

□ 12 災害時は情報が錯綜しやすい。

複雑に入り交じること

□ 13 渾身の力を振り絞る。

からだ全体からだ全体

□ 14 日本人は輪廻転生を信じていた。

生まれ変わること

□ 15 恰好を気にせず仕事にうちこむ。

姿身なり

□ 16 眉間にしわを寄せる。

額の中央

□ 17 巨悪に対し毅然として立ち向かう。

意志が強くしっかりしているさま

□ 18 五穀豊穡を祈願する。

穀物が豊かに実ること

□ 19 祖父は骨董を商っていた。

古美術や古道具

□ 20 壁に向かって不満を吐く。

小声で独り言を言う

□ 21 夫婦の絆を確かめ合う。

人と人との結びつき

□ 22 後生を願い、仏道に励む。

極楽に生まれ変わること

□ 23 コンサートは熱気に溢れるものだった。

満ち満ちている

□ 24 『斜陽』は没落の運命を辿る一族の物語だ。

ある方向に進む

□ 25 故郷の町が祭りで賑わう。

人出が多く混み合う

□ 26 機音が絶えない、紡績で有名な町。

織物を作る手動の機械

□ 27 秘めた思いを日記に綴る。

文章を書き表す

□ 28 あまりの無軌道ぶりに呆れて物も言えない。

事態のひどさに愛想をつかさ

□ 29 笹の葉が軒端に揺れる。

軒のはし

□ 30 どうしても不安を拭いきれない。

消し去る

すいこう

ごい

せつな

しょうよう

ひご

いふ

しよせん

せんぼう

ちゅうしん

えいごう

けう

さくそう

こんしん

りんね

かつこう

みけん

きぜん

ほうじょう

こつとう

つぶや

きずな

ごしょう

あふ

たど

にぎ

はた

つづ

あき

のきば

ぬぐ

「推す」と「敵く」で表現を迷ったという故事から

「彙」には「同類のもの」という意味がある

【対】劫

【類】散歩

「庇」には「雨や日を守るひさし」という意味がある

「畏」には「敬服する」という意味がある

「詮ない」は「しかたがない」

【類】【訓】うらや(む)

「折衷」は「異なるものをほどよく調和させること」

【類】永遠

「希有」とも書く

「錯」には「まじる」という意味がある

【類】全身「満身」

【類】流転

「恰好」とも書く

「眉目秀麗」は「容貌が美しいこと」

「毅」には「強い」という意味がある

【類】豊作

「古いだけで役に立たないもの」という意味もある

「ぶつぶつ言う」と近い意味である

本来は「動物をつなぎとめる綱のこと」

「来世」という意味もある

【類】イツ・イチ「充溢」など

「手がかりを辿る」は「手がかりを探し求める」

「殷賑」は「非常ににぎやかなこと」

【類】織機

「つなぎ合わせる」という意味もある

【類】ホウ・ボウ「呆然」など

【類】【訓】「先端」など

【類】はし・はた

【類】シヨク「払拭」など

- 1 無事の知らせに安堵の胸をなでおろす。
安心すること
- 2 役人が賄賂を要求する。
便宜をはかつてもらうために贈る不正な金品
- 3 工事中のために迂回を余儀なくされる。
遠回りをする
- 4 羞恥心を持つことは悪いことではない。
はじらいの気持ち
- 5 メディアは時として事実を歪曲する。
事柄を意図的にゆがめ曲げること
- 6 監督が審判の判定に執拗に抗議する。
しつこく
- 7 気障で鼻もちならぬ男が主人公の映画。
服装や言動が気取っていて嫌味なさま
- 8 相撲を棧敷席で見る。
地面や土間よりも高く作った見物席
- 9 三島由紀夫は夭折することを夢みていた。
みしまゆきお 地面や土間よりも高く作った見物席 年が若くて死ぬこと
- 10 都会の喧噪の中で孤独をかみしめる。
騒がしいこと
- 11 本質的ではない末梢的なことにこだわる。
重要でないこと
- 12 新しい勢力が勃興する。
にわかにおこること
- 13 会社再建の牽引車として期待される。
先頭に立って推進する人
- 14 デパートでは符牒がよく使われる。
仲間内だけでしか通用しない言葉

- あんど
 - わいろ
 - うかい
 - しゅうちしん
 - わいきよく
 - しつよう
 - きぎ
 - さじき
 - ようせつ
 - けんそう
 - まっしょう
 - ぼっこう
 - けんいんしゃ
 - ふちよう
- 【本領安堵】は「幕府が代々の領土の領有権を認めたこと」
- 【賄】には「所有する財貨」という意味がある
- 【迂】には「遠回りをする」という意味がある
- 【羞】には「はじる」という意味がある
- 【歪】には「ゆがむ」という意味がある
- 【拗】には「しつこい」という意味がある
- 【気障り】の略
- 【棧橋】は「サンばし」と読む
- 【題】「夭折」
- 【喧騒】とも書く
- 【梢】には「こずえ(枝の先)」という意味がある
- 【勃】には「急に起る」という意味がある
- 本来は「荷物を積んだ車両を引っぱる動力車」という意味
- 【符丁】とも書く

- 15 亡き友のための回向を行う。
死者のために経を読み冥福を祈ること
- 16 さまざまな幻想に呪縛される。
取るに足りないさま 心の自由を失わせること
- 17 滝沢馬琴には戯作者としての誇りがあった。
たみざわばきん 江戸後期の小説の総称
- 18 時間だけが心の傷を癒やしてくれる。
病氣や傷をなおす
- 19 古本屋を覗いてから帰途につく。
ちよつと見る
- 20 商品の値札の桁を間違える。
数の位
- 21 晩秋の山里を散歩中に、時雨にあう。
晩秋から初冬に降ったりやんだりする雨
- 22 溺れる者は藁をもつかむ。
水中に沈む
- 23 社会人になるための知識を貯える。
ためておく
- 24 祖母は足袋をあつらえていた。
爪先が二つに分かれた布製の履物
- 25 チーム一丸となって勝利を掴む。
手に入れる
- 26 前例に則って式を執り行う。
規範として従う
- 27 手術がない。
手段
- 28 過去に遡って補償する。
過去・根本に立ち返る
- 30 何を措いても助けに行かねばならない。
差し置く

- えこう
 - じゅばく
 - ささい
 - げさく
 - い
 - のぞ
 - けた
 - しぐれ
 - おぼ
 - たくわ
 - たび
 - つか
 - のつと
 - すべ
 - さかのぼ
 - お
- 【類】「供養」
- 【縛】「縛」し(ば)(る)
- 【些少】は「ごくわずかである」と
- 【戯】「戯」たわむ(れる)
- 【音ユ】「治癒」など
- 【白】歯が覗く「は」白歯がちらっと見える
- 【桁】が違(う)は「物事の程度や規模がひどく違(う)」
- 【蟬時雨】は「蟬が多く鳴きたてるさま」
- 【心】を奪われる「という意味もある
- 【蓄える】とも書く
- 【音チヨ】「貯蔵」など
- 【地下足袋】は「直接土を踏む足袋」
- 【掴み所がない】は「漠然としてはっきりしない」
- 【法る】とも書く
- 【音ソク】「規則」など
- 【音ジュツ】「戦術」など
- 【溯る】とも書く
- 【音ソ】「措置」など